

一般社団法人 薬学教育協議会

# 平成 28 年度実務実習の良い事例集 (項目別)

— 施設について —

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

---

## 目 次

### 薬局実習

在宅医療	3
地域医療・セルフメディケーション	6
協力薬局	9
継続的な担当	11
連携	12
多職種との関わり	13
服薬指導	14
指導体制および実習環境	16
報告会・発表会の実施	19
患者とのコミュニケーション	20
多くのことを経験	21
僻地医療	21
その他	21

### 病院実習

チーム医療	22
継続的な担当	27
病棟業務	29
服薬指導	30
地域医療	30
連携	31
グループ実習	31
指導体制および実習環境	33
報告会・発表会の実施	37
患者とのコミュニケーション	38
多くのことを経験	38
僻地医療	38
その他	39

## 凡 例

- ◇ 大学側から見た良い事例を集めました。
- ◇ 大学名：非公開
- ◇ 記載事項：
  - 区分：病院、薬局
  - よい実習を行った各施設の特徴（見出し）
  - 具体的な説明（概要）及びまとめ
- ◇ 実務実習実施日程（原則）
  - 第Ⅰ期：平成 28 年 5 月 9 日（月）～7 月 24 日（日）
  - 第Ⅱ期：平成 28 年 9 月 5 日（月）～11 月 20 日（日）
  - 第Ⅲ期：平成 29 年 1 月 10 日（火）～3 月 27 日（月）

#### 【在宅医療について充実した実習が行われた施設】

在宅患者を約 70 人担当している薬局で、実習当初から在宅医療に関する体験型の実習が多く行われた。実習生は実際に患家にも 10 回以上訪問し、患者さんの生活や家族まで含めた医療の提供について深く考える機会を得た。

#### 【郊外型の薬局で在宅医療、健康の維持・増進に係るアイテムの扱いや啓発教室等の活発活動】

実習当初より、一名の在宅患者の担当として患者宅に定期的（ほぼ週 1 回）に訪問し、徐々に慣れてきた段階で患者の状況を把握し、簡単な処方提案や生活上の指導を行なう。実習終盤には提案や指導による変化を、自身の目で確認することにより、学生の達成感と意欲の向上が見られた。

#### 【在宅医療での体験】

在宅医療に同行して実際に残薬を確認、適切な服薬指導と残薬管理のために薬剤師が参画することの意義・必要性を身を持って感じる事ができた。

#### 【在宅医療】

在宅薬剤指導管理を体験することが出来た。患者は末期がん、40 代女性であり、複数回患者居宅を訪問し、生命倫理について深く考える機会を得た。

#### 【在宅医療研修の実施】

在宅研修を通して日本のこれからの医療における薬剤師としての業務について視野が広がり、地域包括ケアに関与したいと思った。

#### 【在宅医療支援薬局】

地域に根差した在宅医療支援薬局であり、学生は体験することで在宅医療業務の現状を知り、在宅医療における薬剤師の役割・機能を自ら考えることができた。

#### 【在宅医療】

在宅医療を通して、服用状況や体調・症状の確認し最適な服薬支援を行う重要性が理解できた。実習初期から患者宅を訪れることで、体調や生活の変化に気づく事ができた。また、そこから得た情報を共有・連携することができた。

#### 【在宅医療実習を通して、地域における薬剤師の役割について深く学ぶことができた実習施設】

- ・在宅医療実習において、薬物治療だけではなく患者とその家族の生活背景にも視点を置き、薬物治療を進めていくことが重要であると実感できる実習であった。
- ・地域包括ケアにおける薬剤師の役割を深く学ぶことができ、医療職と介護職の連携が重要であると感ずることができた。

### 【在宅医療実習の中で患者背景に則した薬剤師業務について深く学ぶ事ができた実習施設】

在宅医療実習において、薬物治療だけではなく残薬に注目することで、患者の服薬アドヒアランスをモニタリングした。また、患者の負担費用や医療費についても着目し、一人一人の患者にとって、最良の医療を提供することを体験できた実習であった。

### 【在宅医療】

学生は、在宅医療における薬剤師の役割の知識が深く理解できた。

居宅内の服薬指導等の会話を通じて、服用状況が悪い場合の理由を探り、改善の対策を考える。また、服薬に伴う患者さんの病状、ADL、QOL を評価する重要性を理解した。

### 【無菌調製も含めた在宅訪問実習】

薬局内にクリーンベンチを有しており、中心静脈栄養の無菌調製も含めた在宅訪問実習が可能な施設である。

### 【在宅専門薬局での研修】

系列店の在宅専門薬局での 2 日間の研修を実施。往診に同行する等、これからの医療の在り方をしっかりと目で見て考える機会が設定されている。

### 【在宅医療】

実習生が実際に患者宅を訪問し、患者のコンプライアンス改善の場面に立ち会うことができた。

### 【充実した在宅訪問実習】

多くの在宅訪問患者を有していることから、11 週の実習期間を通して実習生が在宅訪問に同行する機会があり、他の薬局実習よりも数多くの在宅訪問の経験を積むことが出来る施設である。

### 【在宅医療の実践】

- ・在宅医療に積極的に学生を同行させ、一人の患者さんを継続的に訪問指導出来るようスケジュールが組まれていた。
- ・医師、看護師、ケアマネと在宅診療に同行し、他職種連携を学べた。

### 【在宅医療の実践】

在宅医療に多数回、学生を同行させてくれた。疼痛緩和の無菌調製を実施しており、体験することができた。

### 【在宅患者訪問指導体験ができる施設】

在宅患者を訪問する機会を複数回いただき、実習生が服薬援助を工夫して行うことができた。

### 【在宅医療にかかるカンファレンス参加】

患者が自宅で快適に過ごせるよう、患者および家族、訪問看護師、ケアマネージャー、デイサービスに介護ショップ、薬剤師等で考えていくカンファレンスに参加できたこと。結果として、本人だ

けでなく家族をも含めた信頼関係の構築と職種間の情報共有が如何に重要であるかを理解することができた。

#### **【在宅医療にかかるワークショップの実践と往診同行】**

症例をもとに「自分ならどうするのか、当人にとっての医療とは何なのか」等を学生間で議論を行い、プレゼン発表させるプログラムが組み込まれていたこと。往診に同行することで利用者からの情報収集の難しさ、薬剤だけでなく医療材料に関する知識と医師とのコミュニケーションの重要性を改めて実感できた。

#### **【在宅医療の実習環境の整った施設】**

当該地域の在宅医療の中心的な役割を果たしている施設であり、在宅医療における医師との連携や薬剤師業務全般を体験できる施設である。

## —地域医療・セルフメディケーション—

### 【薬剤師の地域貢献】

薬剤師の地域でのイベントに参加、地域住民の健康維持への薬剤師の役割を学ぶことができた。

### 【地域医療を体験できる施設】

- ・老人ホームに薬を届け、そのまま患者さんの部屋まで行き、直接話を伺う機会を持っている。コンプライアンスが悪く、残薬がある現場を直接見ることもできた。
- ・服薬指導を行う回数も多く、患者さんと接する機会も多く、地域密着の薬局の役割を体験できた。

### 【地域密着型薬局】

- ・1日処方せん枚数が80枚程度、医療用医薬品を約1700品目備え、ドラッグストアを併設している。地域に密着した薬局であり、調剤、医薬品の供給のほか一般用医薬品による健康支援を繰り返し体験できる実習であり、かかりつけ薬剤師の役割を学習できる実習施設であった。
- ・学生は、大学で学んだことが活かすことができ、患者が薬剤師を信頼していることを感じることで実習であったため、自分の将来像を描くことができた。

### 【積極的な地域医療への参画】

高齢者施設で往診をする歯科医に同行して、口腔ケアの実際を学んだり、へき地医療や医療格差を学生に体感させるようなプログラムを実施していた。

### 【地域の健康増進イベントへの参画】

地域薬剤師会が主催する地域住民向けのイベントに参加することでの、地域薬局、薬剤師が果たすべき責務について考える。

### 【調剤業務以外の取り組みを積極的に実施する施設】

門前薬局としての調剤業務とともに、患者向けの地域住民向けの健康情報提供サービスを行っており、実習生にも積極的な関わりを促していた。

### 【地域の学校で薬物乱用防止教室を実習生自身が行った施設】

薬学生が身近にある医薬品も正しい使い方をしなければ『薬物乱用』になること、また危険ドラッグや覚せい剤などの薬物の恐ろしさを説明した。全校生徒の前で理解してもらえるように説明する難しさを体感できた。

### 【学生の学習意欲を高める環境を整えてくれた実習施設】

- ・1日処方せん枚数が80枚程度。地域に密着した薬局であり、調剤、医薬品の供給のほか健康フェアによる健康支援を体験できる実習であった。個々の患者にあわせた最適な方法で、コミュニケーションをとる現場を見ることができ、服薬指導の奥深さを実感することができた。
- ・学生が疑問を持った時、学生自ら解決することのできる環境を用意してくれる指導者であったので、学生は充実した2か月半を過ごすことができた。

### 【在宅医療実習を通して、地域における薬剤師の役割について深く学ぶことができた実習施設】

- ・在宅医療実習において、薬物治療だけではなく患者とその家族の生活背景にも視点を置き、薬物治療を進めていくことが重要であると実感できる実習であった。
- ・地域包括ケアにおける薬剤師の役割を深く学ぶことができ、医療職と介護職の連携が重要であると感ずることができた。

### 【薬局薬剤師の職能について、実習を通して考えることができる実習施設】

1日処方箋枚数：120～130枚／日。地域に密着した薬局であり、実習期間中、学校薬剤師業務を複数回体験できた(小学校お薬教室、CO<sub>2</sub>検査等)。また、精神科の処方を中心にした薬局、小児科の処方を中心の薬局、在宅医療や注射薬の無菌調剤に取り組む薬局、さらにハーブ専門店等のそれぞれの店舗で活躍する薬剤師の方から、店舗の特色についても伺い知ることができ、充実した2か月半を過ごすことができた。

### 【地域連携、チーム医療に関する実習環境の整った施設】

味覚障害の患者に対する対応：医者は患者への対応や処置に困惑し、患者は医師に不信感を持っていたが、指導薬剤師と実習生が時間をかけて患者の訴えに耳を傾け、治療に前向きに取り組むようになった。医者も処方変更に取り組み、現在は経過観察中である。実習生にとって一番の収穫は、患者を精神的にサポートすることが有用であることを薬局内で指導薬剤師と共に体験できたことである。また、地域住民に期待される薬局の役割を果たしていることを体現できた。

### 【実習生が多くのことを経験できる実習施設】

地域活動への積極的な参加、座学が少なく体験重視ながらカリキュラム上の項目のほぼ全てを当該薬局のみで体験可能であるところがポイント。

### 【地域密着型の薬局実習】

- ・当該薬局は地域に古くからある薬局で処方箋に基づいた調剤だけでなく OTC 販売も多くこなしている。実習生は地域の健康アドバイザーとしての薬剤師業務を学ぶことで、求められている薬剤師像を明確にすることができ、期間を通しての積極的な実習につながった。
- ・地域を中心とした在宅業務も多く行われているため、実習生はその業務を通して、薬薬連携も含めて多くの示唆を受け、自ら考え行動することの重要性を実感できる実習となった。

### 【一人薬剤師勤務の薬局。処方せん調剤以外の薬局サービス提供の現場を体験できる貴重な実習施設】

顧客の訴えをよく聞き OTC や漢方薬を提供し、地域住民の健康に関する身近な話題をテーマに地域住民向けセミナーを開催するなど、地域薬局に期待される役割を果たしている。

### 【OTC 医薬品について大学での教育との関連で学ぶ】

OTC 薬の薬効、注意事項を理解し、自らの学習を促すために、OTC 薬の注意点について、OTC 薬に含まれる医療用医薬品の成分と関連づけて学ばせている。その結果、学生は、学部での授業との関連性を理解し、自らの学習方法を見いだすのに役立っている。



### 【セルフメディケーション実習】

施設は、住宅地区の一角に位置し、面分業の形態を取っている。近隣にドラッグストアもないことから OTC 販売量も多い薬局である。実習生は、処方せん調剤とセルフメディケーションを平行して実習することができた。また、セルフメディケーション実習の受け入れ先にもなっている施設であるため、他の施設の実習生も訪れ、実習生同士でも情報交換ができた。

### 【処方せんの集中率が低く、検体測定室のような先進的なサービス提供の現場を体験できる実習施設】

- ・調剤業務において、様々な処方に関わることができ、様々な疾患に対応する力を養うことができた。また、セルフメディケーション推進の一環として実施されている検体測定室実習を体験した。地域における健康情報の発信拠点として役割を果たしている実習施設であった。
- ・学生は、医療現場に触れて自信がついた半面、自分の不足しているところや身につけなければならない課題を発見できた。

### 【薬学生発信のセルフメディケーション】

セルフメディケーション啓発活動の一環として、ポスター作製に取り組んだ。生活習慣に関わる最新のガイドラインを参考に、根拠のあるデータを用い、来局者の興味を引くようなデザインを試行錯誤して完成させた。患者待合室に掲示されたポスターを、多くの患者が注目してくれた事で、とてもやりがいを感じた。

## —グループ実習（協力薬局の充実）—

### 【〇市を中心とした薬局同士の連携】

〇市の薬局実習連携体制が素晴らしい。OTC、薬局製剤、学校薬剤師、災害時役割、在宅医療、施設見学などの項目を教える担当者が決まっており、〇市および周辺で実習中の実習生は、その担当薬剤師の元へ集合して受講する形になっている。普段は様々な場所で実習中の実習生は、上記のように一堂に顔を合わせる機会を何回も得るので仲間意識が芽生えるようだった。また、会社の枠を超えた薬局同士のつながりも構築されており、色々な処方せん調剤を体験させるために実習生を数日間いくつかの薬局へ送り出していた。

### 【複数施設の処方箋で代表的疾患を学ぶ】

複数の実習施設を有する薬局において、指導薬剤師とともに他施設を見学。

「代表的な疾患」に対する様々な処方せんに触れ、自身が服薬指導することを想定したロールプレイや実際のカウンターでの服薬指導数多く経験した。特に精神科領域の薬剤や汎用される内服抗がん剤、抗肝炎ウイルス剤については、作用機序、副作用対策に対する指導薬剤師とのディスカッションを記録し、大学で振り返りができるように1冊のファイルにまとめさせてくれた。

### 【行き届いた連携実習】

実習当初は担当の指導薬剤師の居る店舗にて実習を受け、4週目から同グループ薬局の他店舗（2店舗）での実習を受け、最後の1週間は最初の店舗での実習を受けた。他店舗への実習中も必ず指導薬剤師が毎日日誌や実習内容を確認していただいた。学生本人は、「3店舗での実習は大変かと思っただが、多くの業務を経験できてよかった」とのことであった。

### 【協力薬局の充実】

実習施設・多様な業態の協力薬局がグループとなりで一定期間毎に実習を行うことにより広域門前薬局・単科門前薬局・面分業薬局・漢方を得意とする薬局・OTCを得意とする薬局等で実習を行うことで幅広い知識を得ることができる充実した指導体制であった。

### 【地域で密接に連携した実務実習の構築】

地域全体の実習生が一堂に会し、SGDや発表を行い、地域の薬剤師と活発な議論を交わす機会が複数回あった。

### 【薬局薬剤師の職能について、実習を通して考えることができる実習施設】

1日処方箋枚数：120～130枚／日。地域に密着した薬局であり、実習期間中、学校薬剤師業務を複数回体験できた(小学校お薬教室、CO<sub>2</sub>検査等)。また、精神科の処方を中心にした薬局、小児科の処方を中心の薬局、在宅医療や注射薬の無菌調剤に取り組む薬局、さらにハーブ専門店等のそれぞれの店舗で活躍する薬剤師の方から、店舗の特色についても伺い知ることができ、充実した2か月半を過ごすことができた。

### 【効率よく連携したグループ実習】

主施設は、生活習慣病を中心にした医院の門前薬局の形態で、毎週水曜日が閉店である。そこで、水曜日は、透析医療を中心にした医院の門前薬局の形態である薬局を従施設として実習を行った。多様な疾患について学べたこと、患者対応は時間的な余裕もあった従施設で多くの症例を体験できた。

### 【協力薬局の充実】

協力薬局にも実務実習指導薬剤師がおりカウンター実習において顧客対応を含め充実した指導体制であった。

### 【実習環境の整った施設】

それぞれ調剤と OTC を中心に取り扱う系列の 2 店舗を活用し、バランスのとれた実習スケジュールを設定していた。

### 【複数の薬局での実習】

地域の薬局が協力して学生を受入れ、学生は複数の薬局を巡回して、それぞれの薬局の特徴ある業務を学ぶことができ、より深い SBOs の達成ができた。

### 【学生の受け入れ態勢が充実している】

指導薬剤師と他の薬剤師の方、事務の方々も含め薬局全体で学生を受け入れる体制を作ってくれていた。漢方など SBOs によっては系列の他の薬局での実習を行うなど工夫されていた。また、学生の他の薬局も見てみたいという希望を受けて、近隣の薬局での実習もセッティングしていただいた。

### 【処方意図を理解するためにきちんと指導してくれる施設】

- ・ 処方医の意図を理解できるように、採用薬の特徴や注意点などを指導してくれる薬局で、学生の学ぶ意欲を引き出してくれる施設。
- ・ 副実習先や地域の薬剤師会を有効に活用して、実習内容が偏らないように指導してくれる施設。

## —継続的な担当—

### 【郊外型の薬局で在宅医療、健康の維持・増進に係るアイテムの扱いや啓発教室等の活発活動】

実習当初より、一名の在宅患者の担当として患者宅に定期的（ほぼ週1回）に訪問し、徐々に慣れてきた段階で患者の状況を把握し、簡単な処方提案や生活上の指導を行なう。実習終盤には提案や指導による変化を、自身の目で確認することにより、学生の達成感と意欲の向上が見られた。

### 【継続した服薬管理の実施】

3週目ころから服薬指導を開始し、同じ患者さんを複数回指導でき、さらに多くの患者さんとコミュニケーションがとれるよう心がけていた。

### 【学生が一人の患者の入院から退院までを受け持つことで終始一貫したファーマシューティカルケアを実践】

実務実習の学生が一人の患者入院から退院までを担当するので、一貫した服薬管理や他の医療スタッフとの連携について、学びやすい体制となっている。

### 【実習した病院の地域内の薬局】

1期で実習を行った病院の地域内の薬局で実習。病院で担当した患者さんが退院され、院外処方箋を持参して実習生の薬局に来局。そこで実習生を見つけ、引き続き「服薬指導」を希望。実習生は病院に引き続き、退院した状況でのその患者指導を薬局で体験した。地域医療の連携を実感する経験として学生から報告があった。

### 【在宅医療の実践】

- ・在宅医療に積極的に学生を同行させ、一人の患者さんを継続的に訪問指導出来るようスケジュールが組まれていた。
- ・医師、看護師、ケアマネと在宅診療に同行し、他職種連携を学べた。

### 【病院との連携が深い薬局】

普段から近隣の病院との連携が深く、合同で行われる勉強会に実習生も参加することができ、学生は地域での病院と薬局の連携を学ぶことができている。

### 【薬物療法の実践、地域薬業連携】

地域連携・薬業連携の一環として、薬局と病院の連携実習を取り入れた施設において、患者さんの病院での外来診療の場への同行や、学生からの大学での研究テーマの疾患関連の実習希望を事前に聴取し、その疾患領域に関連する内容を、病院および該当疾患の処方せん応需の多い薬局でグループ実習を実施していただいた。学生にとって、自身の興味のある疾患を通して、個々の患者さんに応じた薬物療法を体験できた。

### 【早期から服薬指導を経験させている薬局】

早期から服薬指導を経験し、患者のニーズがどこにあるか考えさせ調剤業務の重要性を考えさせている。薬業連携、病薬連携の会の開催を手伝うことにより現在の問題点を学生の視点で考えさせている。

### 【地域密着型の薬局実習】

- ・当該薬局は地域に古くからある薬局で処方箋に基づいた調剤だけでなく OTC 販売も多くこなしている。実習生は地域の健康アドバイザーとしての薬剤師業務を学ぶことで、求められている薬剤師像を明確にすることができ、期間を通しての積極的な実習につながった。
- ・地域を中心とした在宅業務も多く行われているため、実習生はその業務を通して、薬業連携も含めて多くの示唆を受け、自ら考え行動することの重要性を実感できる実習となった。

### 【地域連携、チーム医療に関する実習環境の整った施設】

味覚障害の患者に対する対応：医者は患者への対応や処置に困惑し、患者は医師に不信感を持っていたが、指導薬剤師と実習生が時間をかけて患者の訴えに耳を傾け、治療に前向きに取り組むようになった。医者も処方変更に取り組み、現在は経過観察中である。実習生にとって一番の収穫は、患者を精神的にサポートすることが有用であることを薬局内で指導薬剤師と共に体験できたことである。また、地域住民に期待される薬局の役割を果たしていることを体現できた。

## —多職種との関わり—

### 【在宅医療実習を通して、地域における薬剤師の役割について深く学ぶことができた実習施設】

- ・在宅医療実習において、薬物治療だけではなく患者とその家族の生活背景にも視点を置き、薬物治療を進めていくことが重要であると実感できる実習であった。
- ・地域包括ケアにおける薬剤師の役割を深く学ぶことができ、医療職と介護職の連携が重要であると感ずることができた。

### 【在宅医療の実践】

- ・在宅医療に積極的に学生を同行させ、一人の患者さんを継続的に訪問指導出来るようスケジュールが組まれていた。
- ・医師、看護師、ケアマネと在宅診療に同行し、他職種連携を学べた。

### 【在宅医療にかかるカンファレンス参加】

患者が自宅で快適に過ごせるよう、患者および家族、訪問看護師、ケアマネージャー、デイサービスに介護ショップ、薬剤師等で考えていくカンファレンスに参加できたこと。結果として、本人だけでなく家族をも含めた信頼関係の構築と職種間の情報共有が如何に重要であるかを理解することができた。

### 【在宅医療にかかるワークショップの実践と往診同行】

症例をもとに「自分ならどうするのか、当人にとっての医療とは何なのか」等を学生間で議論を行い、プレゼン発表させるプログラムが組み込まれていたこと。往診に同行することで利用者からの情報収集の難しさ、薬剤だけでなく医療材料に関する知識と医師とのコミュニケーションの重要性を改めて実感できた。

### 【在宅医療の実習環境の整った施設】

当該地域の在宅医療の中心的な役割を果たしている施設であり、在宅医療における医師との連携や薬剤師業務全般を体験できる施設である。

## —服薬指導—

### 【多くの服薬指導体験】

実習初期から学生に積極的に服薬指導をさせ、学生もそれに応え意欲が増した。

### 【早期から服薬指導を経験させている薬局】

早期から服薬指導を経験し、患者のニーズがどこにあるか考えさせ調剤業務の重要性を考えさせている。薬薬連携、病薬連携の会の開催を手伝うことにより現在の問題点を学生の視点で考えさせている。

### 【積極的な服薬指導】

実習中盤より積極的に服薬指導を行い、実習期間中に約 100 回行うことを目標としていた。

### 【積極的な服薬指導】

実習期間の前半より積極的に服薬指導を行い、学生自身が実習期間中に約 200 回行うことを目標と定め、それを達成した。最初の頃は指導薬剤師により患者を選んでもらっていたが、後半には自分から積極的に探すことができるようになり、能動的に服薬指導を行うことが、非常に高いモチベーションにつながったようである。

### 【服薬指導に生かすコミュニケーション能力研修】

言葉を使わず、ペンと紙だけでメモに書かれている任務を 6 人で果たすという研修を体験した。研修を通して、患者とうまくコミュニケーションが取れているのか？チーム医療で自分がどの立場にいて、どのような役割を担うべきか？を学んだ。結果、ことばを使わないコミュニケーションは相手に伝える事も、自分の役割を理解するのも難しいことであり、「言った」ということが必ずしも「伝わった」という事でないことを実感することができた。

### 【検査値を生かした服薬指導の実践】

糖尿病患者の服薬指導をはじめとして、服薬指導に検査データを生かしていくことを学ばせてもらえる薬局であった。患者のアドヒアランスが良く、データが改善された場合には患者を褒めることを学び、また薬剤の特性から心配のないデータであれば不安を取り除いてあげるなど。さらに検査データに興味のない患者さんや、検査データを隠したがる患者さんへの対応として、正常値をさりげなく述べてみる方法など実際に試みて成功したときは喜びであった。検査値についてもっと学びたいと思った。

### 【服薬指導件数 200 以上】

指導薬剤師（経営者）の考え方が素晴らしい。患者のニーズにあった服薬指導をするには、知識ではなく経験である。学生は失敗やできないことがあっても、経験数を増やすことで、患者の気持ちがわかる。「学生は経験によって成長する。」の考えのもと、服薬指導を 200 件以上経験させる（患者との信頼関係ができていない薬局ならではのこと）。なお、指導薬剤師と学生とは、交換日記を通して毎日の行動のフィードバックをしている。

### 【服薬指導の実践】

実習初日から投薬にかかる患者対応を経験でき、期間中に 100 名以上の患者に服薬指導が実践できた。結果として、薬剤だけでなく総合的知識、情報収集にかかるコミュニケーションの重要性を実感できた。

### 【継続した服薬管理の実施】

3 週目ころから服薬指導を開始し、同じ患者さんを複数回指導でき、さらに多くの患者さんとコミュニケーションがとれるよう心がけていた。

### 【服薬指導】

学生は、抗リウマチ薬や骨粗しょう症等、飲み方が特徴的な薬の服薬サポートを行うことが出来た。この薬の服薬サポートに深く関わることから、ジェネリック医薬品へ変更する理由は、薬価以外に飲みやすさも重要な要因ではないかと考えることができた。

### 【服薬指導時のコミュニケーションに対するフィードバック】

カウンターでの服薬指導や在宅患者訪問時の服薬指導に数多く関わらせていただき、その際のコミュニケーションについてしっかりと振り返る機会を設けていただいた。

### 【積極的な服薬指導】

実習期間の前半より積極的に服薬指導を行うことができています。服薬指導の機会が多いことで学生は様々なことを考えることができ、高いモチベーションにつながったようである。

### 【患者対応実習の振り返り】

実習期間の中盤から、初回面談、服薬指導等の患者対応実習を開始した。当初、実習生に戸惑う場面が多かったので、実習生自身が振り返る時間を設けて、次の患者対応へ繋げるように工夫された。実習生は、知識を吸収しながらコミュニケーションスキルも上昇してきた。

### 【様々な内容の処方箋取扱い】

- ・ 近隣の総合病院の処方箋は内容が濃く、多くの種類の薬に触れる機会があった。また、服薬指導の機会も多く与えられ、多くの経験を得る事が出来た。
- ・ 毎朝、笑顔での挨拶から始まり、大変良い雰囲気の中で学ぶ事が出来た為、充実して実習に取り組む事が出来た。薬の知識だけでなく、患者様とのコミュニケーションについても良い経験が出来た。



## —指導体制および実習環境—

### 【実習生を迎えることや、その成長をととても楽しみに指導してくれる薬局】

勉強熱心で患者思いと学生が感じる薬剤師たちが協力して指導に当たっている。

### 【実習環境の整った施設】

実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができたため、実習後半には自主性が高まり、それを評価してもらえる指導体制であった。

### 【感染症で長期欠席した学生への対応】

感染症で長期欠席せざるおえなくなった学生に対して、大学側の要請に応じて実習期間終了後も含め欠席分の補講を行った。

### 【学生の受け入れ態勢が充実している】

指導薬剤師と他の薬剤師の方、事務の方々も含め薬局全体で学生を受け入れる体制を作ってくれていた。漢方など SBOs によっては系列の他の薬局での実習を行うなど工夫されていた。また、学生の他の薬局も見てみたいという希望を受けて、近隣の薬局での実習もセッティングしてくださった。

### 【実習生の特性に合わせた指導】

- ・調剤時に規格を間違えて出すこと多かった時には、施設にある規格違いの薬を一緒に問題形式で勉強していただき、ミスを減らすことができた。
- ・服薬指導において上手く話せなかった時も、良いところを褒めていただいたうえで改善点を教えていただき、モチベーションを保ったまま実習に臨めた。

### 【学生の性格に応じた実習の実施】

学生の性格をみて、行動派か控え目か、また何が得意か・・・それに依りて教え方や実習のやり方を変えていた。

### 【実習環境の整った施設】

- ・薬剤師業務を偏りなく教育している。勤務している薬剤師には実務実習を通して自身の薬剤師業務を見つめなおす姿勢がある。
- ・実習学生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができたため、実習後半には自主性が高まり、それを評価してもらえて学生のモチベーションも高まった。

### 【経験豊富な指導薬剤師】

薬局での実習生の受入れは今回が初めてであるが、薬剤師 3 名が認定を受けており他店での指導経験があり、豊富な内容の実習が受けられた。

### 【学生毎の対応】

複数学生を受け入れ個々の学生の日誌に対して丁寧に良い点・間違っている点について評価・コメントを記載し、在宅訪問等に関し各学生のやる気に合わせて指導を行った。

### 【コアカリに沿った実習用資料と指導体制の完備】

- ・到達目標を満足するため、SBO 毎の資料（書類・映像）の作成、ロールプレイ実施、積極的な患者面談、疑義照会、勉強会、最終報告会、卸業者見学、他施設訪問など、地区の薬剤師会と連携しながら系統的に実施できる体制を備えている。新しいコアカリに向けて、指導体制の準備を積極的に進めている。
- ・当該地区の最終報告会において、指導を受けた薬学生のモチベーションが全体的に高く、満足度も高いことが感じ取れた。

### 【複数施設の処方箋で代表的疾患を学ぶ】

複数の実習施設を有する薬局において、指導薬剤師とともに他施設を見学。

「代表的な疾患」に対する様々な処方せんに触れ、自身が服薬指導することを想定したロールプレイや実際のカウンターでの服薬指導数多く経験した。特に精神科領域の薬剤や汎用される内服抗がん剤、抗肝炎ウイルス剤については、作用機序、副作用対策に対する指導薬剤師とのディスカッションを記録し、大学で振り返りができるように1冊のファイルにまとめさせてくれた。

### 【学生の学習意欲を高める環境を整えてくれた実習施設】

- ・1日処方せん枚数が80枚程度。地域に密着した薬局であり、調剤、医薬品の供給のほか健康フェアによる健康支援を体験できる実習であった。個々の患者にあわせた最適な方法で、コミュニケーションをとる現場を見ることができ、服薬指導の奥深さを実感することができた。
- ・学生が疑問を持った時、学生自ら解決することのできる環境を用意してくれる指導者であったので、学生は充実した2か月半を過ごすことができた。

### 【I-III期実習学生への対応】

I-III期実習の学生に対しスムーズにIII期実習が開始できるようI期の振り返りの為の時間を設ける等配慮を行った。（I期で上手く患者対応ができなかった時の気持ちを思い起こさせる等）

### 【教わるより自分で考えて修得する実習】

初日より下記の業務を実践

- ① 投薬業務を実践で学ぶ（患者への服薬指導実施）
- ② 在宅訪問に同行し、担当者会議（薬剤師、看護師、ケアマネ、介護士）にも参加

### 【処方意図を理解するためにきちんと指導してくれる施設】

- ・処方医の意図を理解できるように、採用薬の特徴や注意点などを指導してくれる薬局で、学生の学ぶ意欲を引き出してくれる施設。
- ・副実習先や地域の薬剤師会を有効に活用して、実習内容が偏らないように指導してくれる施設。

### 【実習環境の整った施設】

- ・5つのクリニックが隣接しており、いろんな処方を経験することが出来た。
- ・他店舗での実習や、集合研修として老人施設見学や OTC 実習、応急診療所の見学なども経験できた
- ・余裕のある時間を使って SBO に沿った説明をしていただいたり、副作用報告等実際に使用している用紙を印刷して記入させて頂く等、充実した実習内容であった。

### 【投薬実習が充実しており、また実際の業務に参加できた施設】

- ・投薬業務をしっかりと見せていただくとともに、実習生にもたくさん経験させてくださった。また、フォローやフィードバックも十分していただいた。実習生は自分の足りなかったところを把握でき、目標をもって投薬実習に取り組むことができた。
- ・散剤の小児用量早見表を、指導薬剤師の監修のもと実習生が作成（更新）した。現在、ラミネート加工して薬局店舗（系列薬局を含む）でご活用いただいている。

### 【薬物療法の実践、地域薬業連携】

地域連携・薬業連携の一環として、薬局と病院の連携実習を取り入れた施設において、患者さんの病院での外来診療の場への同行や、学生からの大学での研究テーマの疾患関連の実習希望を事前に聴取し、その疾患領域に関連する内容を、病院および該当疾患の処方せん応需の多い薬局でグループ実習を実施していただいた。学生にとって、自身の興味のある疾患を通して、個々の患者さんに応じた薬物療法を体験できた。

### 【実習環境の整った施設】

実務実習の指導に関して、MPラーニング（薬剤師向けの e-ラーニング）を準備されていた。また、学生に対して、実習内容、SBOs などの説明を週単位で実施されていた。さらに、在宅業務、夜間診療、一般用薬品、夜間勉強会などにおいては、地区単位で協力体制がとられていた。

### 【指導体制および実習環境】

総合病院の近隣に位置する薬局であり、多症例の調剤を経験することが出来た。8 疾患の処方例、全てを実習中に体験することが出来た。

### 【指導体制および実習環境】

指導薬剤師が、スポーツファーマシスト、放射線ファーマシスト等特殊な資格を有していたため、イベント参加等を通じ薬剤師の社会的活動について理解を深めることが出来た。

### 【日常業務を行う背中がお手本になる指導薬剤師】

ちょうど実習期間中に近隣クリニックのまさに門前に新規薬局がオープンしたため患者さんの動向が懸念されていた。しかし指導薬剤師を頼って来局する患者さんの姿を目の当たりにして、地域に根付いた薬局の在り方や大切さを学生が実感した。つまり、実務実習のために、特別に何かをセッティングしなければならない実習は本来の目的とするものではなく、指導薬剤師が日常業務を行う中でその背中を学生に見せることのできる指導薬剤師が求められる指導薬剤師ではないかと思う。

### 【薬局以外での実習】

卸や製薬会社の見学、他薬局との交換実習、市民に向けたイベントの参加など、「薬局」以外での学習の機会を設けて実習

### 【薬物治療の理解】

漢方エキス製剤及び刻み製剤の応需を受けている施設では、処方医師を招いて診断と漢方薬の適正使用について講義をしていただいた。症例を詳細に解説していただいたので、学生の理解が深まった。

### 【実習生に合った毎日の復習課題提示】

指導薬剤師がその日に取り扱った医薬品のうち1つを指定して学生にまとめるように指示し、翌日その復習を行った。ポイントを押さえて追加説明などを行うので、学生は実習に対する意欲と達成感を得られることができた。

## —報告会・発表会の実施—

### 【web で実施する服薬指導報告会】

同じ調剤薬局グループの各店舗で実習を行っている学生33名が、9週目にweb上で服薬指導報告会を行い、学生同士が経験した内容を伝え合う試みを行っていた。Webで行うため各地区の学生と指導薬剤師が1か所に集まる必要はなく、学生1人しか受け入れていない店舗でも他の実習生の様子が分かり、学生同士意識を高めることができると感じた。(ちなみに、この調剤薬局グループでは、最終週に全学生が1か所に集まって発表会を実施している。)

### 【研究発表をさせている薬局】

学生が自ら問題点を見つけ患者アンケートなどを行い、学生の視点で解決策を考えさせる。アンケートを行う事で患者さんとのコミュニケーション力を養い、結果をプレゼンテーション出来るように指導している。発信出来る薬剤師養成を目指している施設。

### 【研究テーマによる指導】

実習期間初期に研究テーマを与え、終了時にプレゼンテーションを行わせた。問題意識を持ちテーマを考え、企画しまとめる一連の流れを学生たちで考えさせるプログラムを組まれていた。

### 【成果発表会の題材から発表まで学生の自主性を伸ばす施設】

在宅医療における医療従事者の連携というテーマを学生が考え、薬剤師の在宅医療における役割を考え、在宅関連他職種からアンケートをとり、まとめ、問題点を明らかにするという研究手法を取って問題点を明らかにし、在宅医療の理想像まで提案で来ていた。自主性を持たせていただける指導体制であった。

## —患者とのコミュニケーション—

### 【研究発表をさせている薬局】

学生が自ら問題点を見つけ患者アンケートなどを行い、学生の視点で解決策を考えさせる。アンケートを行う事で患者さんとのコミュニケーション力を養い、結果をプレゼンテーション出来るように指導している。発信出来る薬剤師養成を目指している施設。

### 【服薬指導時のコミュニケーションに対するフィードバック】

カウンターでの服薬指導や在宅患者訪問時の服薬指導に数多く関わらせていただき、その際のコミュニケーションについてしっかりと振り返る機会を設けていただいた。

### 【服薬指導の実践】

実習初日から投薬にかかる患者対応を経験でき、期間中に 100 名以上の患者に服薬指導が実践できた。結果として、薬剤だけでなく総合的知識、情報収集にかかるコミュニケーションの重要性を実感できた。

### 【患者対応実習の振り返り】

実習期間の中盤から、初回面談、服薬指導等の患者対応実習を開始した。当初、実習生に戸惑う場面が多かったため、実習生自身が振り返る時間を設けて、次の患者対応へ繋げるように工夫された。実習生は、知識を吸収しながらコミュニケーションスキルも上昇してきた。

### 【服薬指導に生かすコミュニケーション能力研修】

言葉を使わず、ペンと紙だけでメモに書かれている任務を 6 人で果たすという研修を体験した。研修を通して、患者とうまくコミュニケーションが取れているのか？チーム医療で自分がどの立場にいて、どのような役割を担うべきか？を学んだ。結果、ことばを使わないコミュニケーションは相手に伝える事も、自分の役割を理解するのも難しいことであり、「言った」ということが必ずしも「伝わった」という事でないことを実感することができた。

## —多くのことを経験—

### 【さまざまな体験ができた施設】

実習中に他の実習中の学生と合同で、県の行政薬剤師の話や卸の薬剤師の話、試験センターの見学、などを行い薬局以外で働く薬剤師の実情を学ぶ機会があった。また、在宅においては、無菌調剤室でIVHの調製の経験もできた。服薬指導を行う回数も多かったせいか、学生の中では前半と後半で大きく成長したことを自覚しており、さまざまな体験を経験でき、満足度も高い。

### 【豊富な研修機会】

- ・ 休日診療所、消防署での救命指導、薬局製剤、漢方製剤、胃瘻管理、訪問看護、在宅酸素、医師との往診同行、学校薬剤師業務の見学 等
- ・ 経験豊富な複数名の指導薬剤師の中で、薬剤師業務を幅広く学ぶ事が出来た。

### 【実習生が多くのことを経験できる実習施設】

地域活動への積極的な参加、座学が少なく体験重視ながらカリキュラム上の項目のほぼ全てを当該薬局のみで体験可能であるところがポイント。

## —僻地医療—

### 【僻地医療の見学】

実習期間中に、へき地の薬局や病院を見学するツアーに参加させ、学生に対して僻地医療の現状と大切さの理解を深めた。

### 【積極的な地域医療への参画】

高齢者施設で往診をする歯科医に同行して、口腔ケアの実際を学んだり、へき地医療や医療格差を学生に体感させるようなプログラムを実施していた。

## —その他—

### 【被災地の見学】

実習期間中に、宮城県薬剤師会主催の被災地医療修学ツアー（南三陸町・女川等）を訪れ、医療の現状と今後の展望を学んだ。

### 【副作用検討】

実習施設でお渡しした薬で発現した副作用の事例検討、文献調査。

#### 【カンファレンスに参加による処方提案】

カンファレンスに参加し、医師を含め医療スタッフ間で積極的なやり取りの中で薬剤師による処方提案が行われていた。

#### 【チーム医療の実践と積極的な参加】

実習生も積極的にカンファレンスや回診に参加して、チームの中の薬剤師の役割を体験できる施設。

#### 【チーム医療の参画】

多職種で該当症例にラウンドやカンファレンスに参加し、多職種と治療における意見交換の実施

#### 【医師へ積極的な処方提案】

カンファレンス参加など、薬物治療について医師および看護師と話し合いのシステムあり。

#### 【カンファレンスへの積極的参加】

診療科ごとの多職種のカンファレンスに積極的な参加を指導され、多くのカンファレンスに参加し、病態や治療方針などの議論を通じ多職種間の連携を学ぶことができた。これにより学生は、実習意欲だけでなく学習意欲も増した。

#### 【医師（病院長）主催のカンファレンスに参加】

医師（病院長）主導の多職種合同のカンファレンスの開催があり、学生が参加して大変刺激になったとの報告があった。実際のカルテ・画像を含む各種検査結果などを教材にしてカンファレンスが開催されており、学生の医療人としての総合力の向上になっていたと考えられる。主催している医師からは、コメディカルの積極的な医療への参画により、医療の質向上に寄与することを目的にしているとのこと。

#### 【病棟常駐薬剤師が指導するチーム医療の実践】

病棟実習に際しては、8時から開始される病棟カンファレンスに指導者と一緒に参加するなどカンファレンスへの参加の機会を得ることで、疑義照会や薬物治療に係る処方提案に際して、実習生自ら考える態度を養成してくださった。その結果、実習生が医師、看護師とスムーズに連携がとれるようになった。

#### 【チームへ医療への積極的な参加と処方提案】

- ・初日より院長の回診同行があり臨床で学ぶ大切さを学ぶことが出来た。
- ・カンファレンス、回診同行時に学生の考えを述べさせる機会が与えられた。

#### 【チーム医療への参画】

様々な院内チームや委員会へ参加し、リハビリなど他部署の見学も実施。病棟カンファでは、医師

から薬学部実習生に疾患の丁寧な解説、質問や意見をなど発言する機会を作ってもらうなど配慮いただき、他職種からも実習生を受け入れられている環境である。

#### 【チーム医療参画機会の増加】

患者と接する機会（病棟実習や患者宅への訪問薬剤指導実習など）や他職種とも接する機会（認知症ケアチーム、栄養サポートチーム、緩和医療カンファレンスなど）が多く設けられている。

#### 【医師との協働による薬物治療】

フィジカルアセスメントを通して患者の様態を評価し、薬物治療について医師と協働するシステムがある。

#### 【医師へ積極的な処方提案】

薬効を評価し、薬物治療について医師と話し合いのシステムあり。

#### 【医師へ積極的な処方提案】

- ・ 薬効を評価し、指導薬剤師と相談して薬物治療を医師に提案。
- ・ フィジカルアセスメントによる副作用チェック。
- ・ 多職種カンファレンスへの参加、SP参加型 IPE の実践。
- ・ 持参薬チェックと電子カルテへの記録。
- ・ 電子カルテへ薬剤管理指導記録を SOAP にて記載。

#### 【医師への積極的な処方提案】

薬物療法上問題がある患者について、学生に最初から処方を考えさせ、それが合理的であれば、指導薬剤師の指導の下、医師と直接話をさせ処方提案を行う所まで体験させている。それにより学生は、問題解決に自ら積極的に関わったことで、高いモチベーションを感じることができている。

#### 【医師へ積極的な処方提案】

- ・ 薬効を評価し、薬物治療について医師と話し合いのシステムあり。
- ・ キャンサーボードなど、週 1 回、病棟において医師と話し合うシステムあり。

#### 【チーム医療への積極的な参画：処方提案とフィジカルアセスメント】

褥瘡チームにおける病棟回診およびカンファレンスに参加。踵の褥瘡（壊死組織除去の不具合および浸出液が多い症例）の処方薬変更提案（フランセチンパウダー→ヨードホルムガーゼ及びネグミンシュガーへ）をした。その後調剤された外用薬の塗布を薬剤師と共に行った。（まとめ）処方提案だけでなく、外用薬の処置を実際に行うことで、正しい薬剤の使用方法を、看護師をはじめチームスタッフへ伝えることも薬剤師の仕事であると実感できた。

#### 【多くの部署を見学】

手術室や検査科など多くの部署に見学に行かせて頂いて診断や治療法の決定の流れが分かりました。



### 【手術室の見学】

手術室へ入り、実際に行われている手術を見学してもらい、薬剤師の活躍の場を勉強してもらった。

### 【病院内での薬剤師の職能を経験する】

オペ室やICUでも実習を経験させてくださっている。

### 【薬剤部以外での実習】

「薬剤部」以外での施設の機能を使った、手術や病理解剖の見学、糖尿病教室やチーム医療への参加など、様々な体験型実習

### 【幅広くきめ細やかな指導】

- ・CT室やシャントPTA、透析室の見学等多くの施設や処置の見学をさせて頂き、また実習当初から症例カンファレンスやNST回診に参加させてもらうことで、他の医療従事者との関わり等広く学ぶことが出来た。
- ・指導薬剤師が、日誌のコメント欄にほぼ毎日記載してくださり、その他の薬剤師からも親切丁寧に指導して頂いたため、知識の習得やモチベーションの向上につながった。

### 【患者の治療全般の理解を深める実習】

薬剤師業務に関する実習に留まらず、実際の患者の手術や内視鏡検査等の見学を、関係部署の協力を仰いで行っている。学生はそのような貴重な経験をすることで、一人の患者の治療を具体的に幅広く理解することができている。

### 【充実した病院施設】

病棟業務や各部署見学、診察室での見学など色々と座学では学べない知識が増え、又、充実した病院施設でたくさんの内容を学ぶ事ができた。学生は「楽しい時や課題に追われて大変な時もありましたが、振り返れば充実した実習を体験できた事は大きな自信に繋がったように思います」と言っている。

### 【救急医療の体験】

病院実習の期間中に、実習生1名ずつが1日救急部に常駐し、救急患者の医療を見学する。また適宜、救急部医師から救急医療に関する説明を受ける。実習2日後に、救急部での実習内容を他の実習生の前で発表し体験を共有する。

### 【薬の相談】

看護師から薬に関する相談を受けていて、薬剤師の活躍が見られた。

### 【チーム医療】

薬剤師以外の他職種の方の仕事を見て、将来のチーム医療について考える事が出来た。

### 【コメディカルとの連携】

病院において、コメディカルとの関わりにも重点を置いており、様々な部署での実習が実施されている。

### 【積極的なフィジカルアセスメントの実践】

NST の病棟回診において、医師、看護師の指導のもと、栄養剤を投与した際の腸の状態を知るために聴診器の使い方を指導してもらった。聴診器を実際に使用するのは初めてであり、腸音をうまく聞けなかったのが残念だった。授業の中で聴診についてもっと学ぶ必要性を感じた。

### 【学生が一人の患者の入院から退院までを受け持つことで終始一貫したファーマシューティカルケアを実践】

実務実習の学生が一人の患者入院から退院までを担当するので、一貫した服薬管理や他の医療スタッフとの連携について、学びやすい体制となっている。

### 【チーム医療体験】

学生の意欲を重んじて、選択方式で NST カンファ、手術、レジメン審査委員会などのチーム医療体験プログラムを行った。これらのプログラム前にはオリエンテーションを行って準備をし、終了後には報告会を行い参加しなかったプログラムについての情報共有を図った。

### 【副作用対策へのチームの介入と、患者とのコミュニケーション】

- ・抗がん剤治療の副作用に対し、緩和ケアチームが介入して対策を立てる場面に、実習生が実際に立ち会うことができた。
- ・同じ薬物治療を開始した同じ疾患の複数の患者を実習生 1 名が担当した。患者のキャラクター、症状、理解度の違い等に合わせた服薬指導を経験した。

### 【薬剤部以外での実習】

「薬剤部」以外での施設の機能を使った、手術や病理解剖の見学、糖尿病教室やチーム医療への参加など、様々な体験型実習

### 【慢性疾患の急性増悪患者を選んで詳しく指導】

慢性疾患の多い病院でありながら、貴重な急性増悪の患者さんを担当させ、入院から退院まで、病態を学生自ら学び、副作用や合併症なども考察したうえ、服薬指導にあたり、退院後の地域包括ケアの対応も含め高齢患者さんを在宅にもどせるという経験をさせていただいた。医師、薬剤師、看護師、理学療法士などとのチーム医療を体験できた。

### 【TDM および医師へ処方提案】

TDM による投与設計後、副作用発現の有無を確認するとともに、実際に処方提案を行う機会を与えてくださった。

### 【患者集団指導体験】

当該病院で行っている糖尿病教室に医師をはじめ他職種と連携しながら患者への集団指導を体験するシステムがあり。

### 【入院から退院までの患者担当制】

糖尿病教育入院指導を利用した、入院から退院までの一連の教育治療を担当し、医師、看護師とのチーム医療を体験するシステムあり。

### 【薬剤師の充足率が高い】

病床数に対して多くの薬剤師が配置されおり、全病棟・部署に薬剤師を常駐させている。薬剤部のみならず院内の筋弛緩剤、毒薬、麻薬、向精神薬の管理やチーム医療への参画、処方提案等、薬剤師に求められる業務等、充実した実習が受けられて学生にとって有意義な経験となった。

### 【緩和ケア内科における薬剤師の関与】

副作用として発現した悪心・嘔吐に対し制吐剤を導入するという方法だけでなく、原因の評価を行い、原因と考えられる薬剤を中止することも考察することでアプローチの選択肢を増やすことが出来た。このことからどの選択が一番患者のためになるかを考えることが大事であることを学んだ。

### 【継続的なモニタリングと他職種連携】

一人の化学療法施行患者を継続的にモニタリングした。その過程で他職種との連携の実際と意義を良く理解できた。

## —継続的な担当—

### 【継続的なモニタリングと他職種連携】

一人の化学療法施行患者を継続的にモニタリングした。その過程で他職種との連携の実際と意義を良く理解できた。

### 【学生が一人の患者の入院から退院までを受け持つことで終始一貫したファーマシューティカルケアを実践】

実務実習の学生が一人の患者入院から退院までを担当するので、一貫した服薬管理や他の医療スタッフとの連携について、学びやすい体制となっている。

### 【臨床実習の充実】

専門領域（循環器系）中心ではあるが、患者の薬物治療を入院時から退院まで経時的に学ぶことができた。特に、患者の抱える問題点を学生に考えさせる指導方針により、問題解決能力の向上に繋がる実習であった。

### 【継続的な担当】

実習当初から病棟の担当患者さんを指導薬剤師と一緒に訪問・指導する実習を行い、時間のある時は、自由にその担当患者さんのお話を聞きに行くことができた。

### 【実習生による患者の継続的な担当と介入】

初回化学療法の患者を実習生が継続して担当し、起こった問題について介入した。実習生がオリジナルの説明書やカレンダーを作成し、患者への説明等に用いた。

### 【慢性疾患の急性増悪患者を選んで詳しく指導】

慢性疾患の多い病院でありながら、貴重な急性増悪の患者さんを担当させ、入院から退院まで、病態を学生自ら学び、副作用や合併症なども考察したうえ、服薬指導にあたり、退院後の地域包括ケアの対応も含め高齢患者さんを在宅にもどせるという経験をさせていただいた。医師、薬剤師、看護師、理学療法士などとのチーム医療を体験できた。

### 【病棟活動の充実した実習施設】

入院時から退院時までの継続した患者教育に関わらせていただき、患者とのコミュニケーションの取り方について貴重な経験をさせて頂いた。

### 【入院から退院までの患者担当制】

糖尿病教育入院指導を利用した、入院から退院までの一連の教育治療を担当し、医師、看護師とのチーム医療を体験するシステムあり。

### 【薬剤管理指導業務への早期参画】

実習開始早期から特定の患者を担当することで、入院から退院までを通して患者との関わりを持つことで、能動的な学習を行うことができています。

### 【継続した服薬指導】

外来がん化学療法室に通院されている Weekly レジメン乳がん患者さんに対して、4週間継続して服薬指導を実践した。当該患者様へ指導薬剤師から実習生を紹介したのち、点滴時間を利用して、患者面談の時間をいただいた。

### 【患者対応、服薬指導、患者教育】

入院患者に対し、入院時から退院時まで継続的に患者を担当させてもらうことができた。患者の状態や問題点を把握し、医師の指示内容を理解した上で服薬指導をおこない、患者の問題点を一緒に解決して退院まで持っていくことができた。退院指導のときには患者より感謝された。症例発表まで行うことができた。

## —病棟業務—

### 【病棟実習の強化】

薬剤部が 6 階と病棟に近いので、病棟実習をするのに都合がよい環境である。そのため、他の医療職種との関係も良好で、多くのことを体験できた。また、学生の自主性を重んじ、学生の希望を最大限に尊重してくれた。

### 【学生の志向に沿った病棟配属】

全ての病棟で、それぞれの担当薬剤師から指導を受けた後、最後の 2～3 週間について、指導薬剤師や診療科を統合して、それぞれの学生が深く実習を受ける病棟を選べるようにしており、学生のモチベーションが保てるようにしている。

### 【病棟実習に重点を置いた実習】

- ・ 薬剤部内の指導体制として、全期間を通して一人の薬剤師が主担当を務め、さらに病棟ごとの別の指導薬剤師に付くことで、病棟による違いや薬剤師による考え方の違いなど多くのことを学べるように工夫されていた。
- ・ 薬剤師の専門性や様々な考え方も含めて学べるようなスケジュールとなっている。

### 【病棟薬剤業務に関する参加型実習】

病棟薬剤業務において、実習生 1 名に対し 2 名以上の薬剤師が割り当てられ、参加型の実習が行える指導体制となっていた。

### 【病棟業務を行う上での薬剤師間の連携】

病棟薬剤師と DI 室とのカンファレンス実施により、Risk Management Plan (RMP) の活用法について認識の共有・病棟状況管理シートの記載、病棟ごとのハイリスク薬を定義、DI や病棟でされた質問の内容と回答の共有・評価等を行うことで患者と病院両者の利益になる。ということを学んだ。

### 【精神科病棟における実習】

カンファレンス参加および服薬指導に同行することで、病態・抗精神病薬の副作用等を患者の容態を観察しつつ理解できる。

## —服薬指導—

### 【服薬指導から処方提案】

服薬指導で患者さんと実際に話をしたりして関わることで、処方提案などができ、患者さんの体調が良くなって行くところを間近で見ることができた。

### 【患者対応、服薬指導、患者教育】

- ・入院患者に対し、入院時から退院時まで継続的に患者を担当させてもらうことができた。患者の状態や問題点を把握し、医師の指示内容を理解した上で服薬指導をおこない、患者の問題点を一緒に解決して退院まで持っていくことができた。退院指導のときには患者より感謝された。症例発表まで行うことができた。

### 【副作用対策へのチームの介入と、患者とのコミュニケーション】

- ・抗がん剤治療の副作用に対し、緩和ケアチームが介入して対策を立てる場面に、実習生が実際に立ち会うことができた。
- ・同じ薬物治療を開始した同じ疾患の複数の患者を実習生 1 名が担当した。患者のキャラクター、症状、理解度の違い等に合わせた服薬指導を経験した。

### 【継続した服薬指導】

外来がん化学療法室に通院されている Weekly レジメン乳がん患者さんに対して、4 週間継続して服薬指導を実践した。当該患者様へ指導薬剤師から実習生を紹介したのち、点滴時間を利用して、患者面談の時間をいただいた。

## —地域医療—

### 【地域医療】

地域医療について学び、地域に密着した医療として必要不可欠なものと感じる事が出来た。また、積極性と向上心を持って実習にのぞみ、指導薬剤師も熱心に指導していただいたので、多くの知識・成果を得る事が出来た。

### 【地域医療連携について学ぶ】

地域医療連携の一環として、県内では数少ない緩和ケア病棟の見学をさせてもらった。家族の宿泊施設や家族とくつろぐ部屋もあり、従来の入院施設のイメージと大きく異なる環境に遭遇する事が出来た。病院から地域へ、地域から病院への連携の中、医療関係者は勿論、地域ボランティアの支援活動がよりよい人生の最期を迎える患者のためには不可欠である事を知った。そして薬剤師は、薬剤の知識を基盤に、地域医療を支える様々な人々と連携していくことが必要である事を学んだ。

### 【地域包括ケア病棟での実習】

地域包括ケアについて、薬局だけのものではなく、病棟をもっていたり、また、地域の薬業連携のカンファレンスへ学生も参加させてくださっている。

## —連携—

### 【薬薬連携における病院の取り組み】

外来がん化学療法について、薬局薬剤師への情報提供の取り組みとして病院の薬剤部ホームページからレジメン情報を閲覧できるようにしている。治療内容についての問い合わせについても専任の薬剤師を配置し薬局薬剤師と連携し行っている事を学ぶことが出来た。

### 【地域包括ケア病棟での実習】

地域包括ケアについて、薬局だけのものだけでなく、病棟をもっていたり、また、地域の薬薬連携のカンファレンスへ学生も参加させてくださっている。

### 【地域医療における薬薬連携】

退院時指導に加えて、入院後変更、追加された薬剤、検査データを薬局側に提供している。

## —グループ実習—

### 【地域で連携した病院実習】

十分に実施できないSBOsがある場合には、地域の病院同士が連携して実施する体制を作っていた。

### 【多様な医療機能】

多診療科を持つ総合病院、医療機能の異なる施設間のグループ実習、施設併設型の病院などで、さまざまな疾患をもつ患者群の経験を通して、医療の多様性とそれぞれの専門性について学んだ。

### 【機能の異なる施設の見学】

実習期間中に、病床数や専門領域の異なる他施設（小児医療、精神科専門病院など）を見学し、それぞれの特色や違いを考えた。見学後に報告会をひらいて見学できなかった施設についても学んだ。

### 【他病院の見学】

他病院の見学についても、病院・診療科の特徴・特色・運用など、大きく違い、とても勉強になったと学生に好評価を得た。

### 【施設間合同実習】

3つの病院との施設間での実習があり、ひとつの実習病院だけでなく、特色の異なる他の施設でも実習できるのがよい。

### 【他病院の施設見学】

実習の一環として他病院の施設見学を実施。医療の発展に貢献することを目標にする病院もあれば、地域に根差した医療を行う病院もあり、様々な医療の役割を知る機会が設定されている。



### 【「代表的な疾患」への対応を視野に入れグループ実習を試みられておられる実習環境の整った施設】

改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習で求められている「代表的な疾患」への対応を視野に、当該施設で対応不十分な「がん疾患」について、関連病院におけるグループ実習により補完することで実習内容の充実を計られている。実習先との契約を予め別々に契約することや、達成度評価の方法についても検討されており、今後のグループ実習のモデルになる実習であった。

### 【改訂コアカリに対応した実習】

期間中に他施設での実習（精神科専門病院、在宅医療）を組み入れていただいたことで、より施設の実施状況、患者を通じて病態・薬物療法等を体感できた。

### 【病院間の連携】

それぞれ実習生を受け入れている近隣の急性期病院と慢性期病院が、それぞれの病院では実習が難しい内容について、1日ではあるが実習生を互いに交換して実習を行っている。

### 【精神科疾患のグループ実習】

精神科を持っていない2施設について、同組織の精神科施設または近隣地区の精神科病院でグループ実習を行った。実習期間は1週間としたが、精神科系薬物治療や患者応対について体験することができた。

## —指導体制および実習環境—

### 【実習環境の整った施設】

- ・多くの知識を持つ薬剤師が複数で対応
- ・学生にとって意欲をそそる内容が多く盛り込まれており、実務技能習得環境としては大変良好

### 【実務実習担当専従薬剤師配置】

実務実習専従薬剤師 4～5 名配置されており、きめの細かい、充実した指導が受けられた。

### 【ストレスのない環境】

職員間の人間関係が良く実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができた。

### 【学生毎の対応】

学生のレベルに合わせて指導を行う体制になっている。日誌の記載内容に対して丁寧にコメントを記載することによって実習生のモチベーションが維持された。

### 【学生毎の対応】

コミュニケーションが上手く出来ない学生に対しても学生が委縮しないようにご配慮いただき実習を無事に終了できた。

### 【病院全体での実習の取り組み】

実習終了時の報告会では院長はじめ、医師、看護部長も参加し病院全体で学生を指導していこうとする体制が取られていた。

### 【多くの薬剤師による指導】

実務実習を担当する指導薬剤師や、薬剤部の責任者が実習のプログラムや内容は統括しているが、毎日の実習については、ほとんど全ての薬剤師が実際の指導を行っている。学生にとっては色々な薬剤師の考え方を知ることができたり、また若い薬剤師の場合は様々な相談をしやすいかたりするようで、継続的なストレスを受けにくい環境であるように思われる。

### 【プリセプター制度の導入】

指導薬剤師のほかに、プリセプター（先輩薬剤師）がプリセプティ（実習生）をマンツーマンで教育・指導する制度を実務実習に導入している。

### 【学生が安心して実習しやすい雰囲気】

- ・学生の受け入れを病院全体で歓迎し、フォローしている。
- ・地区の中核病院で、幅広い診療科を経験できる。

### 【治験センターでの実務実習】

治験センターの薬剤師の役割・業務に関する実務実習が行える体制となっていた。

### 【薬剤師の役割を新たな視点で学生が考えることのできる実習】

- ・ 僻地医療や他職種連携といった実習項目が加わった。
- ・ 知識豊富な薬剤師が、学生の質問にも優しく熱心に対応している。

### 【実習環境の整った施設】

- ・ プログラムがしっかりと組まれており、初日に予定表として配布されたので実習に取り組みやすく、抜けのないしっかりとした実習を受けることが出来た。
- ・ 実習時間内はもちろん、時間外でも国試の問題解説や今後の国試傾向、薬剤師のあり方や今後の傾向など幅広く指導して頂けた。
- ・ 全ての薬剤師から勉強のコツをはじめ多くのアドバイスを頂けた。

### 【実習環境の整った施設】

- ・ 薬剤師業務を偏りなく教育。
- ・ 病棟実習に向けた実践的なシミュレーション演習（SP を用いた IPE、症例ベース実践的なフィジカルアセスメントによる治療提案など）。
- ・ 電子カルテを活用した病棟実習（指導内容の実記入など）。

### 【体系的な実習内容】

セントラル業務および病棟業務をバランスよく配置した実習内容となっており、理想的な参加型実務実習を可能とする体制が整っている。

### 【実習生の主体的な参加】

DI 実習で学生に電話対応を任せた。学生は医師からの問い合わせに対応した。その後の病棟実習で、自分の対応結果がカルテに記載されていたので、学生はうれしかったとのこと。

### 【改訂コアカリに対応した実習】

実習初日より患者情報の収集や病棟業務においてカンファレンス参加および服薬指導に同行し、患者と直接対応している。病院全体で実習生を受け入れている。

### 【実習環境の整った施設】

- ・ 音声案内を利用した抗がん剤注射剤の無菌調製システムなどリスクマネジメントを目的とした取り組みも体験できた。
- ・ 実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができたため、実習後半には自主性が高まり、それを評価してもらえる指導体制であった。

### 【実習環境の整った施設】

実習ユニット毎に学生が相互発表を行うなど知識の共有化にも配慮され、薬剤師業務を偏りなく修得できる教育システムあり。

### 【糖尿病教室の講師体験】

毎期、実習中盤に糖尿病教室の講師を実習生が担当する機会を設けていただいております、それに向けた資料作成・練習も含め、実習生にとって貴重な経験となっている。

### 【問題解決能力の育成】

病棟実習時、病棟薬剤師によっては何でも説明して教えてしまう薬剤師もいるため、1年ほど前から各病棟薬剤師に直ぐに答えを教えず調べさせたり考えさせたりするように依頼している。実習生には「受け持ち患者に何をしたいのか、自分で考えて病棟薬剤師に申し出るように」「何も申し出がなければ、患者さんと関わりを持たず時間だけが過ぎていく」ことを説明し、問題発見・問題解決能力の育成に力を入れている。

### 【幅広くきめ細やかな指導】

- ・ CT 室やシャント PTA、透析室の見学等多くの施設や処置の見学をさせて頂き、また実習当初から症例カンファレンスや NST 回診に参加させてもらうことで、他の医療従事者との関わり等広く学ぶことが出来た。
- ・ 指導薬剤師が、日誌のコメント欄にほぼ毎日記載してくださり、その他の薬剤師からも親切丁寧に指導して頂けたため、知識の習得やモチベーションの向上につながった。

### 【実習環境の整った病院】

実習早期から、調剤などの基本業務だけでなく、下記のような薬剤管理指導業務や DI 業務などについてご指導いただけた。

実習 8 日目：外来化学療法 of 患者様への指導同行

実習 9 日目：DI ニュースの作成

実習 10 日目：病棟での救急カートの管理

また、実習 26 日目には薬剤部内で薬剤管理指導の小括発表会を開催されるなど、学生にとって実際の薬剤業務に即した充実した実習を実施いただけた。

### 【教育体制の充実へ向けた病院の姿勢】

薬剤部長が関東地区の〇〇大学の非常勤教授も務めており薬学部生の実務実習の教育法について共同研究されているとのこと。関東圏のため受け入れる実務実習生の出身大学の種類が多く、また、近隣県の実務実習指導に関する情報も数多く耳に入る状況のようであった。当該病院は医学部附属病院という性質上医学部生の臨床実習を受け入れており、将来的には医学部・薬学部の学生が実習中に一緒に学ぶ体制を作りたいという。薬剤部長を通してではあるが、薬剤部のモチベーションの高さが感じられた。

### 【教育体制の充実】

この病院の特徴は、病院における様々なテーマをシステムティックに説明していることです。例えば、病院実習開始の初期段階で、病院の大まかな部署・病棟の案内、来院からの初診・再診の流れは当然ですが、そこから派生する守秘義務・薬剤師倫理規定に至るまでを一連の流れで説明しています。また、病院の安全管理に関しても、安全管理室の働きやリスクマネジメントとの関連性などの大きなテーマから説明を始め、末端である薬剤部における毒薬の取り扱いまでを一連の流れで説

明しています。おそらく、看護部や病棟、手術室での薬品の取り扱いについても同様の流れで説明しているのではないのでしょうか。このような説明の仕方は、病院内の各部門のシステムを熟知しているだけでなく、部門横断的な知識があることからできることだと考えられます。このような説明をうけて実習を受けた学生は病院組織の全体像を把握しやすく、組織における薬剤師の役割を理解しやすいため実際の実習の効果もあがると期待されます。

### 【教育体制の充実】

総合病院であり、精神神経科を除いて入院施設を有していたので、種々の疾患の薬物療法、薬剤管理業務について統合的に学習することができた。31年度開始の新実務実習での代表的な8疾患対応に関しては精神神経科以外対応できた。薬剤管理指導症例は20症例程度、うち1例は入院から退院まで一貫して症例に関わることができた。病院での他部署見学の機会があり、さらに手術見学の機会もあり、これらの事を通じて病院全体での薬剤師の役割等について学ぶ機会があった。災害を想定した病院全体でのトリアージ研修会にも参加する機会があったとの事で、地域における病院機能についても学ぶ機会があったことは有意義であったと思う。

### 【早期より患者さんに関わる機会を持たせた】

早期より直接の配薬を行わせるなど、患者さんに関わる機会を持たせている。

### 【医療安全の大切さについて実際に医療現場から学んだこと】

調剤業務や服薬指導の実施の上で欠かすことが出来ない、医療安全について考える機会があった。その中でもインシデントについて深く考え、実習前と後では医療に対する考え方を学ぶことが出来た。実際に患者さんが薬を服用した後の様子を自分の目で確認し、時には症状や薬についての考えを聞き、座学では得られないことを学ぶ事が出来た。

### 【在宅医療理解の向上】

往診に同行する等、これからの医療の在り方をしっかりと目で見て考える機会が設定されている。

### 【実習修了証の授与】

病院実務実習終了時に、薬剤部長から表紙カバー付きの病院実務実習修了書が手渡されている。また、実務実習開始早期に病棟実習を行い、病棟薬剤師の業務を見学している。実務実習の早期と終了時にこれらを行うことで、実習生のモチベーションアップが図られている。

### 【全領域に渡って充実した実習、学生が「優秀な先生方に学べて自分達は恵まれている」と発言するような指導者による実習】

調剤、注射調剤・混合調製、病棟活動、DI等々、すべての領域について充実した実習を行っていただけでなく、例えば、psychoeducationへの参加や、学生の積極的な希望により、当初は実習予定に組み入れていなかった病棟での実習も行っていただいた。さらに、“指導薬剤師”の肩書とは関係なく、さまざまな部署で「優秀な先生方に学べて自分達は恵まれている」と学生達が発言するような先生方に指導していただくことができた。SBOs云々ではなく、やはり最終的には薬剤部および薬剤師業務自体のqualityの高さが実習内容に反映されると考えられる。

## — 報告会・発表会の実施 —

### 【院内の症例発表】

自身が実務実習を通して関わった症例発表。

### 【中間報告会の実施】

5週目に中間報告会を実施し、それまでの学生の修得したことを発表し、薬剤部員と担当教員でフィードバックを行い、必要に応じて学生の理解を修正して、その後の学習意欲の向上につなげる。なお、最後の週に成果発表会を実施しており、学生個々の成長度をはかれる。

### 【救急医療の体験】

病院実習の期間中に、実習生1名ずつが1日救急部に常駐し、救急患者の医療を見学する。また適宜、救急部医師から救急医療に関する説明を受ける。実習2日後に、救急部での実習内容を他の実習生の前で発表し体験を共有する。

### 【学生の課題発表会を中間にも行うことで、学生の目的意識の向上および大学との連携を計られている実習環境の整った施設】

学生の実習課題について「中間発表会」と「期末発表会」の2回実施いただいている。中間報告を行うことで、学生の課題に対する進捗状況の整理や意識の向上だけでなく、大学教員も当該学生の実習課題の進捗状況について具体的に知ることにより具体的な指導・助言が出来る。今後の施設と大学の連携の観点からも望ましい方法であると考える。

### 【患者対応、服薬指導、患者教育】

入院患者に対し、入院時から退院時まで継続的に患者を担当させてもらうことが出来た。患者の状態や問題点を把握し、医師の指示内容を理解した上で服薬指導をおこない、患者の問題点を一緒に解決して退院まで持っていくことができた。退院指導のときには患者より感謝された。症例発表まで行うことができた。

### 【実習環境の整った施設】

実習ユニット毎に学生が相互発表を行うなど知識の共有化にも配慮され、薬剤師業務を偏りなく修得できる教育システムあり。

### 【学生による自発的な症例報告会】

実習中に一人の実習生が経験できる病棟・診療科は限られてしまうが、「限られた知識しか得られないため、ローテーションを組み、週に一度、昼食時に実習生だけの症例報告会を開き、多科に渡る症例情報を共有しよう」と実習生が自ら提案し、実践していた。その施設は実習生が10名ほどおり、提案学生も強制したわけでもなかったが、全員が参加していたとのこと。無論、施設の薬剤師から特別に指示をしたわけではなく、「こんなことは初めてですよ」と感心されていたが、自発的に行うことが良いと考えており今後も施設から提案はしない方針とのこと。

## —患者とのコミュニケーション—

### 【副作用対策へのチームの介入と、患者とのコミュニケーション】

- ・ 抗がん剤治療の副作用に対し、緩和ケアチームが介入して対策を立てる場面に、実習生が実際に立ち会うことができた。
- ・ 同じ薬物治療を開始した同じ疾患の複数の患者を実習生 1 名が担当した。患者のキャラクター、症状、理解度の違い等に合わせた服薬指導を経験した。

### 【病棟活動の充実した実習施設】

入院時から退院時までの継続した患者教育に関わらせていただき、患者とのコミュニケーションの取り方について貴重な経験をさせて頂いた。

## —多くのことを経験—

### 【質の高い実習を体験できた病院】

総合病院であり、それぞれの診療科の特徴を網羅していた。PICS (服薬指導システム)、詳細な SOAP を利用した薬剤管理指導記録の作成、簡易懸濁法、経腸栄養療法では、栄養補給だけでなく栄養剤の味や副作用も注意、栄養状態を把握するための SGA シートや ODA シートの使用、DPC (Diagnosis Procedure Combination)、精神科病棟の生活技能訓練 (SST : Social Skills Training) への関与、クリニカルパスの DPC とかかわり、DMAT、がん治療におけるエビデンスのないレジメン不採用、ハーセプチンとアブラキサンの調製、WHO 方式がん疼痛治療法、CDDP+PEM 療法にアバスチンを併用投与する患者さんへの服薬指導等々多くの貴重な実習を体験でき、学生も刺激を受けていた。

### 【薬学教育実務実習アドバンスプログラムユニット】

「薬剤部」以外での施設の機能を使った、手術や病理解剖の見学、糖尿病教室やチーム医療への参加、医療区分ごとの病院（急性期、回復期、精神科）、診療所（クリニック）、行政機関のそれぞれの機能に応じた実習

## —僻地医療—

### 【薬剤師の役割を新たな視点で学生が考えることのできる実習】

- ・ 僻地医療や他職種連携といった実習項目が加わった。
- ・ 知識豊富な薬剤師が、学生の質問にも優しく熱心に対応している。

#### 【病院で抱える問題点に関する医薬品情報ニュースの作成】

実習期間中、院内で抱えていたお薬に関する問題点について、学生主体でDI ニュースを作成し、指導薬剤師添削のもと病棟などに情報提供していた。例として、インフルエンザ罹患シーズンの手指消毒剤の適正使用など。薬剤師としての問題抽出力や調査力、機敏に情報提供するスピードなどが養える大変よい課題と感じた。

#### 【院内製剤が薬剤師の手で作られ病棟で適用されるまでの課程を見学】

実習期間中、がん性皮膚腫瘍に対して、指導薬剤師の指導下でモーズペーストを作成し、皮膚科医により患者に適用される施術を見学した。調製薬剤師が現場に訪問し、腫瘍の大きさや状態に応じて、製剤組成をきめ細かく変更する課程や作られた薬剤がどのように適用されているのかを見学した。医薬品メーカーが作成しない院内製剤の必要性を理解するに有益な実習となった。また、医師が感謝している言葉を聞き、製剤の重要性を認識する機会となった。

#### 【アドバンスコースとして選択プログラム（プロトコール審査委員会、リスクマネージャ会議、NST、ICT、EBM 演習、治験ピアレビュー、CRC 同行など）の実施】

SBOs にない上記の活動について直接会議に同席することで具体的な問題点や議論を聞くことにより貴重な経験と知識の確認が可能となる。

#### 【学生オリジナルの薬の説明書作成】

学生がオリジナルのお薬説明パンフレットを作成し、それを用いて患者さんに説明を行った。指導薬剤師がフィードバック、ブラッシュアップ後、実用化されることもあり、学生のモチベーション向上に繋がった。

#### 【指導薬剤師と学生の相性の良さによる円滑な服薬指導実習】

元々接しやすい指導薬剤師と学生であり、お互いに相性がよかった。その上で、SBOs も順調に進んだことから、結果として数多くの服薬指導実習が実施できた。指導薬剤師からは「すぐにでも本当の服薬指導ができる」とのお褒めの言葉をいただき、また学生の満足度も高かった。

#### 【喘息治療に関わる薬剤師の役割や、薬物療法等の知識が深く理解できた】

吸入指導の実習を通して、患者さんのより良い治療のために、処方内容から何を伝えることができるのかについて考察できた。

#### 【タイムリーな話題に関するDI 紙作成】

高額薬剤としての「オプジーボ」が薬価改定前に薬価引き下げとなった話題について、「高額薬剤との付き合い方」に関する薬剤部情報紙の作成を行うことで、高額薬剤に対する今後の展望について考えることが出来た。



### 【DI 業務にかかる実地実習】

新規採用医薬品についての情報収集と評価、薬事委員会への参加：直接MRと面談を行い、既存薬との比較データを作成するとともに、指導薬剤師に当該事項をプレゼンした。併せて医療スタッフからの問い合わせ、副作用収集事例に対しても報告書を作成することで真の医薬品情報管理業務を実感できた。

### 【処方解析の実践とプレゼン】

日々、膨大な処方解析を実践し取り纏めることで、疾患や処方意図、必要な指導内容等を思考しつつ調剤する姿勢が自然と身についた。